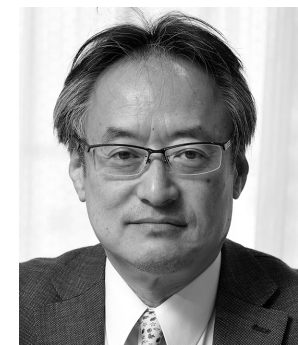


ウクライナ戦争後のヨーロッパ

東京大学法学部教授 遠藤 乾



- *東西対立復活で結束強化されたNATO
- *戦後ヨーロッパはNATOを基盤に出発
- *統一ドイツをいかにコントロールするか
- *加速するウクライナのEU、NATO加盟論
- *ウクライナ加盟に待ち構える多くの溝
- *欧州議会選挙で注視される極右勢力の動向
- *ポピュリズムが台頭してきた背景
- *日本も例外ではない移民の増加
- *注目される2025年、27年の独仏の選挙
- *ウクライナ戦争に終わりが見えない理由

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

6月に欧州議会選挙が行われる予定ですけれども、今は右派の台頭とかそういう予測が出ております。最近スロバキアで首相の暗殺未遂が起きましたり、ドイツの議員が暴力行為を受けたり、結構ヨーロッパ議会選挙の前に不穏な状況になっていると思います。

今日は、欧州を専門とされています遠藤乾先生にお越しいただきました。先生は、北海道大学の法学部を卒業された後、オックスフォード大学で政治学博士号を取得されました。その後北海道大学で助手、助教授、教授と、皆さんもご存じだと思いますけれども、北海道大学へ拠にして活躍されて、2022年に東京大学へ転じていらっしゃいます。『統合の終焉 EU

の実情と論理』という本をお書きになって、これは岩波書店から2013年に出ている本ですが、第15回の読売・吉野作造賞を受賞されて、私はその授賞式で初めて先生にお会いしたということでもあります。

先ほど伺いましたら、先々週にウクライナのほうにも行かれて、キーウですとかウクライナ南部の都市にまで足を運ばれて、モルドバのほうにも行かれてきたというお話でした。今日は欧州情勢、日本から離れてなかなかわかりにくい部分もありますので、先生に詳しくお話をしたいかと思います。

（拍手）
それでは先生、よろしくお願いたします。